

ノジトラノオ *Lysimachia barystachys* Bunge

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。全国的に希少な植物で、本州中部と九州に隔離的に分布しており、愛知県は本州の中では分布域の西限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、しかも人為的影響を受けやすい場所に生育している。

【形態】

多年生草本。横にはう地下茎がある。地上茎は高さ 70~100cm、ふつう分枝せず、短い毛がやや密に生える。葉は互生し、葉身は倒披針形~線状楕円形、長さ 6~10cm、幅 8~15mm、先端は鈍頭~鋭頭、基部は狭まってほとんど無柄、辺縁は全縁である。花期は 6~7 月、茎の先端に上部が傾いた総状花序を伸ばし、上側に多数の花をつける。花は長さ 4~7mm の柄があり、花冠は白色で 5 裂し、直径 8~10mm、裂片は狭楕円形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：15 豊橋北部 (芹沢 81661, 2007-6-30)。
尾：37b 尾張旭 (芹沢 87651, 2012-6-22)。2 区画の各 1 カ所に生育している。西：33 安城 (東端町, 芹沢 76843, 2000-7-3) にも生育していたが、ヌマトラノオとの雑種に圧迫されたらしく、2007 年には現存が確認できなかった。ヌマトラノオとの雑種と思われるものは、33 安城 (芹沢 81739, 2007-7-11) のほか対岸の 34b 碧南 (芹沢 81736, 2007-7-11) にも生育しており、51 名古屋南東部 (岡本沙也香 321B, 2001-6-8)、56a あま (芹沢 94222, 2018-6-17) でも採集されたことがある。

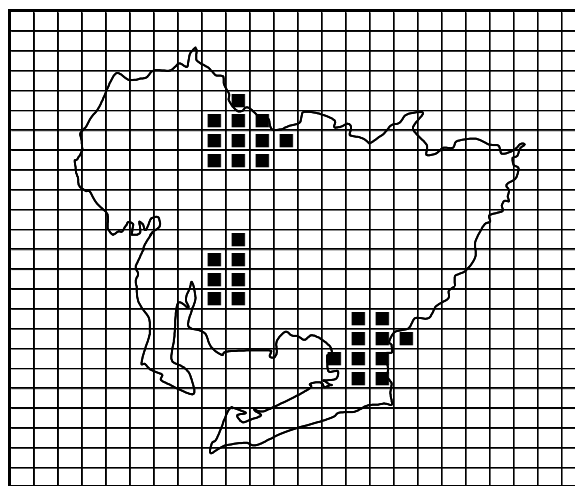
【国内の分布】

本州 (東北地方南部から中部地方まで)、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸北部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよいやや湿った草地に生育する。愛知県の生育地は、いずれも河川や水路のわきの土手である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

豊橋北部は小群落が 3 つ、瀬戸尾張旭はやや大きい群落が 1 つあるだけで、土手の改修があれば容易に消滅する。また、瀬戸尾張旭は隣接して駐車場があり、その拡張や除草剤の散布によって失われる可能性がある。

【保全上の留意点】

現在ほどの生育地も、河川や水路の管理上の必要から定期的な草刈りが行われているが、これがなくなればススキなどの大型草本に覆われて消滅する可能性が高い。生育地の地形を現状のまま保全すると共に、草刈りを続け、草地状態を維持する必要がある。

【特記事項】

オカトラノオ *L. clethroides* Duby に似ているが、葉が細い。関東地方のものと愛知県のものは苞葉の長さや茎の毛の量などが異なっており、詳細な検討が必要である。彩色画はレッドデータブックあいち 2001 植物編 図版 6 に掲載されている。

【関連文献】

平草本Ⅲp.19, 平新版 4 p.195, 環境省 p.471, SOS 新版 p.198,206.